

令和 7 年

第 2 回教育委員会会議録

(開会 令和 7 年 2 月 13 日)

(閉会 令和 7 年 2 月 13 日)

岐阜県可児市教育委員会

令和7年2月13日午前9時00分開会
会場：市役所5階第2委員会室

出席委員

堀部好彦君（教育長）
梶田知靖君（教育委員）

伊藤小百合君（教育委員）
長井知子君（教育委員）

欠席委員

小栗照代君（教育委員）

説明のために出席した者

飯田晋司君（事務局長）
木村正男君（学校教育課長）
三宅愛彦君（学校教育課主任指導主事）
只腰知子君（学校教育課学校支援係長）
古野 寿君（学校教育課指導主事）
牛江明美君（子育て支援課専門対策監）
石丸 聡君（子育て支援課子育て応援係長）

水野 修君（教育総務課長）
水野伸治君（学校給食センター所長）
石黒智子君（教育研究所主任指導主事）
小木曾千恵君（学校教育課学校支援係主事）
村井伴成君（教育研究所指導主事）

出席委員会事務局職員

木村雄大君（教育総務課総務係長）

伊藤師啓君（教育総務課総務係）

日程及び審議結果

- 1 開 会
- 2 前回会議録の承認
- 3 教育長報告
- 4 教育委員報告
- 5 議 事
 - ①議案第2号 教育に関する予算の意見について（令和7年度可見市一般会計予算）（原案可決）
 - ②議案第3号 教育に関する予算の意見について（令和6年度可見市一般会計補正予算（第8号））（原案可決）
 - ③議案第4号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について（原案可決）
- 6 報告事項
 - ・いじめ相談受付状況について
- 7 各課所管事項
- 8 委員からの提案協議事項
- 9 その他
- 10 閉 会

開会の宣告

- 教育長（堀部好彦君） これから令和7年第2回の教育委員会会議を開催します。
定足数につきましては、出席委員が過半数を満たしておりますので、この会議は成立するということによりお願いします。

前回会議録の承認

- 教育長（堀部好彦君） 前回の会議録の承認について。
- 教育総務課長（水野 修君） 前回の会議録に変更はございません。
- 教育長（堀部好彦君） 変更はなしということで、よろしくお願いします。

教育長報告

- 教育長（堀部好彦君） 教育長報告でございます。

3点お願いします。

1点目は、1月18日、19日に開催されました小中美術展・特別支援学級作品展のことなんですけれども、私もこの作品展に行ってきました。毎年行っているんですけれども、校長会等での報告によりますと、小中美術展については、この2日間で何と2,612人の市民来場ということだそうです。この集客数という言葉が適切か分かりませんが、この数というのは、a 1 aで行われるイベントでも多いほうというか、すごい人数じゃないかと思っています。また、社会科作品展とか、科学作品展も併せてすばらしい取組をやってくださっていると思っています。

校長会で中部中学校の笠嶋校長が言っておられたんですけれども、あの方は美術が専門の方なんですけれども、例えば小・中の可児市の美術展、あれだけの数、800点以上の作品が集められているんですけれども、あれだけの数の作品が集まり、あれだけの数の人が集まる作品展というのは県内でも今そんなにないよというお話でした。やはり働き方改革のこともあるんでしょうけれども、職員の負担とかを考えて、縮小または取りやめるところがある中で、可児市は先生方の御協力、それから教育委員会事務局の方々の御努力でこの作品展が続いているということです。

今後も教育委員会としてしっかり支援していきたいと思っておりますし、学校の先生方の御努力への感謝もお伝えをしていきたいと思っておりますのでございます。これが1点目です。

2点目ですが、ばら教室の修了式に行ってきました。1月31日、今年9回目の修了式でございました。今回は蘇南中学校に行く3人の子たち、3年生の子だったと思っておりますが、修了式に参加をしておりました。佐野校長先生、それから担任の3人の先生が同席をしてくださりました。私も来賓として出席をしたので、今回も話をするときがあって、子供たちの決意の語り、感謝の語りに感動し、そのことを伝え、頑張っ蘇南中学校で勉強してねという話を伝えたいんですけれども、今回は可児市PTA連合会事務局の藤井さんにも参加をしていただきました。委員の方々、PTA会長、PTAの役員とかやっておられる御経験があると思っておりますが、可児市の多文化共生、外国籍児童・生徒への指導というのを保護者がきちっと理解をしていくということも大切ではないかと思つたも

のですから、藤井さんに参加をしていただきました。この後は、可児市PTA連合会の方々がこの修了式に参加をされて、ばら教室の取組の値打ちを肌で感じていただけるのではないかと考えています。

加えて、私の来賓としての挨拶の中で、今回これまで触れなかったんですけども、こんなことを話しました。子供たちのエールに加えて、もちろんばら教室の先生方への感謝も伝えたんですが、加えて蘇南中学校の校長先生、そして3人の担任の先生方へということをお願いをしました。何をお願いしたかという、ばら教室ができて20年を越していると思うんですけども、可児市は外国籍児童・生徒が就学100%を目指してずっと取り組んできて、大きな成果を上げてきた。これ、考え方は、そういった外国籍の子供たちに光を、日本で暮らしていけるように光をとというスタンスだったと思うんですけども、私はもう一つ別の視点で外国人の子供たちが光になれると思っています。

今回も3人の子たち、本当に努力をして日本で生きていく覚悟を決めて、ばら教室で学び、蘇南中学校で学び、高校に行きたいと。将来は日本で仕事をして、可児市で仕事をして生きていきたいという思いを持っている。そういった努力だとか、覚悟だとか、志だとか、それを日本人の子供たちは学ぶべきではないかなと思う。そういう意味で、外国人の子供が光になれるんじゃないかと、可児市はそういう段階なんだと思います。そのことを校長先生と担任の先生をお願いをして、この子たちの努力を見詰めて、その値打ちを学級の日本人の子供たちに伝えてやってください。キャリア教育ですよというお話をしました。

いつも修了式のときには、ばら教室の担当の大口さんが私に手紙を下されます。今回の修了式で修了する学校に行く子たちの紹介をしてくださるんです。ある男の子、3人のうちの1人、男の子のことを紹介してくださいました。手紙の中で。この子は、母国で数年間教育の機会を逃した生徒だったそうです。コロナ禍で学校に行けなくて、行けないので宿題を学校に提出するような学習方法で2年、3年学んでいたんですけども、対面授業が戻ったときに授業が全然分からなくて不登校になってしまったそうです。母国で。そういった子を受け入れたばら教室だったんですけども、5年以上も不登校が続いたその子が、ばら教室はほとんど毎日来たそうです。すばらしいなと思って。

だから、そんな努力も日本人の子供たちに伝えていきたいなんて思うんですが、この大口さん、何と書いておられるか、最後にね。どの子供たちも、様々な境遇に置かれながら、言語の違う国でけなげに学ぶ姿に熱いものが込み上げてきます。日本の義務教育機関で学び、日本で、可児市で一市民として活躍することを願ってやみません。

このばら教室の先生方の志のすばらしさを改めて思っています。外国籍の子供たちが光にということで、蘇南中学校の多文化共生の教育の新たな視点というか、そんなことを示させていただいたのかなと、偉そうな言い方ですけども、ますますそういった指導が充実することを願っています。これが2点目です。

3つ目ですが、1月28日、このたび私FMららにデビューをさせていただきました。小栗委員に今回お願いをして、私の話をさせていただきました。小栗委員は、FMららのパーソナリティーの一人として大活躍しておられますが、担当する番組は毎週火曜日、「昼ドキッ！ワンダーランド☆」というネーミングで、その中の「HAPPY子育て情報室」というコーナーに出演をさせていただきました。2曲の曲が入りまして、実際私

の話は12分ほど、6分・6分の12分で、パーソナリティーの小栗さんとの掛け合いも少し入りながらということです。

以前、私が就任した当初、「笑顔の“もと”」について書いた文章を小栗さんがこの番組で紹介をしてくださったことがあって、そのときにお礼をお伝えしましたところ、教育長もぜひ出演してくださいよと、その頃からお誘いは受けていたんです。実際に今回出演をお願いしたんですけれど、その訳は、去年の「笑顔の“もと”」奨励賞の式典会場で、非常に私やっぱりあのときの子供たちの姿とか奨励賞の中身に感動して、非常に高揚したところで小栗委員とあの会場でお話をさせていただいたときに、ぜひFMらららに出演させてくださいと、そのときをお願いをしたんですね。というのは、そのときに奨励賞の話をしたいなと思ったんです。

1月28日にそれが実現したんですけれど、6分・6分ですので、最初の6分何を話そうかなと、後の6分何を話そうかなと。最初の6分は、今申し上げたように奨励賞の話をさせてもらいました。春里小学校の子たちの活躍ぶり、奨励賞の中身を紹介して、可児市の教育が目指しているものをお伝えしました。

その後、もうあと6分何をしゃべろうかといろいろ考えたんです。いろいろ考えて行き着いたところ、6分なので、そんなに何たくさんいろいろしゃべれないので、行き着いたところは地域との協働です。教育大綱の重点に位置づいている協働です。具体的には、蘇南中学校の夏祭りのことだとか、NPOを立ち上げてキャリア教育に資する講話をしていく講師を派遣しますよという取組。学校は学校で一生懸命頑張っているんだけど、可児市は学校を支える地域の力に加えて、こんな子供たちを育てたいという願いを持って地域の方々が立ち上がっておられるんだと。その具体として蘇南中学校の例を出し、そして全ての学校でコミュニティ・スクールが導入されているということをお伝えしました。

ここで自分気がついたことですが、6分・6分という限られた時間で何を伝えようか、何をこそ伝えようか、教育長として考えて、結構考えたんです。いろいろなことが思い浮かんだ。最終的に地域との協働というところに行き着いた。そういったときに、ああ、僕自身がこれが一番やりたいということなのかなという気づきがありました。今回出演させていただいて、自分自身がやりたいことがはっきりしたなということも思っております。

それでは、以上で教育長報告を終わりたいと思います。

教育委員報告

- 教育長（堀部好彦君） では、教育委員報告に入ります。
- 教育委員（伊藤小百合君） おはようございます。よろしくお願いいたします。

前回の会議からの報告をさせていただきます。

1月18日に、先ほど教育長からもお話がありましたが、可児市の小中美術展と特別支援学級の作品展を見に行ってきました。その中で、自分で印象的だったのが小学校の絵だったんですけれども、「心の色」というタイトルがありまして、何枚かあったんですけど、1枚を十字に区切っているいろいろな色使いをしている子もいれば、1枚のところいろいろな色使いをしている子もいましたし、部分部分にいろいろ固めて色を合わせて

いるというのもあって、すごく興味を持って見てきました。様々な色使いがあったんですけど、明るい色だったりとか、ちょっと暗い色だったりとか、いろいろな色使いがありまして、そのときの描いた心情がどういうふうだったのかなと浮かべながら見させていただきました。

あと、特別支援学級の作品展のほうで、もしかしたらちょっと今までもあったかもしれないんですけど、黒く布張りというか、テントみたいにしてあって、その中で絵が浮き出る、光るクレヨンが使ってあってブラックライトを当てると、すごく絵が輝いて見えるというのがあって、初めて入ってみたんですけど、すごく何とも言えない、ああ、すごい面白いと思って見てきたんですけど、普通に多分クレヨンで描いているときは描いているときに一生懸命描いているときのよさがあると思うんですけど、暗いところで浮き出るというか、見える見方がすごく面白くて、夜空を小さくした場所みたいで、すごく面白く見せていただきました。子供たちのいろいろな、すごくたくさん絵が描いてあったんですけど、それぞれの表現がしてあったので、1つの空間の中にいろいろあって、すごく面白かったなというのを感じました。

あと、中部中学校だったと思うんですけど、多分切り絵だと思われるんですけど、すごく細かい作業で作られているのがあって、どうやってやったのかなあとという、その工程を見てみたいなのというのを感じていろいろな発見をさせていただきました。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

伊藤委員、大変丁寧に見ていただけたようでありがとうございました。

先ほども私も出たんですけど、2,612人、大変大勢来てくださったんですけど、数の多さだけではなくて、会場へ行きますと、本当に伊藤委員と同じように皆さんがじっくり見ておられるんですね。通り過ぎてば一っと思うんじゃなくて。子供たちの作品の力というものも感じましたね。ありがとうございました。

○ **教育委員（梶田知靖君）** おはようございます。

前回会議から、私のほうは教育委員としての活動は特になのですが、1月末に、私の自分の仕事のほうで小学校を6校ほど回らせていただいていたしまして、その中で気づいたこととといいますか、少し校長先生からお話をお聞かせいただいたところを3校御紹介したいと思います。

まず1点目は気づいたことというか、私の担当校ではないですが、南帷子小学校にお伺いしたときに、そこで私どもの仕事が終わって帰ろうとして、運動場で体育の授業をやっていたんですけど、先生の数があまりにも多かったので、校長先生、教頭先生、それから教務主任、あと担任の先生方、六、七人いらっしゃっていて、少しお話を聞かせてもらって、1年生の体育の授業だったんですけど、元気のいいお子さんが多いということで、ちょっと大変なんですみたいなことをお聞かせいただきました。その場はすぐ出てしまったんですけど、その後に帷子小学校へお邪魔した際に、教育長も行かれたことがあると思うんですが、校長室の廊下へ出た壁一面に「笑顔の“もと”」賞。

○ **教育長（堀部好彦君）** 「笑顔の“もと”」賞と言っていますね、帷子小学校はね。

○ **教育委員（梶田知靖君）** がいっぱい貼ってあって、校長先生に少しだけお話をし、それこそ昨年12月の「笑顔の“もと”」奨励賞のときにはうちの学校からは出せ

なかったけれどもという、その賞状の数を見たときに、多分校長先生は選べなかったのかなと、絞ることが難しかったのかなというのがすごく感じ取れました。

あと、今渡南小学校にも行きまして、それこそホテルが、いまみ川のところが昨年終わったんですが、その場所を何に運用するかということで少し校長先生にお話をお聞きしましたら、学校運営協議会と子供たちの間で意見を出し合ったそうです。つい最近そういった会議をされたようで、まだ具体的には何というのは決まっていならしいですけれども、今候補をいろいろ出していらっしゃるという段階だそうなので、いましばらく楽しみにお待ちくださいということでしたので、そんなお話を聞かせていただきました。

私の報告は以上になります。

- **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

教育委員として学校をきちっと見ていただいているなど、お仕事の最中にね。ありがとうございます。

今渡南小学校のホテルの活動に代わるものということですね。

- **教育委員（梶田知靖君）** そうですね、あの場所を。
- **教育長（堀部好彦君）** あそこの活用ということ。
- **教育委員（梶田知靖君）** そうです。
- **教育長（堀部好彦君）** それは今渡南小学校校長経験者としても大変ありがたいし、梶田委員もPTA会長として御活躍だったので、大変興味のあるところですね。また私からも校長さんに聞いてみたいと思いますし、梶田委員もその辺り報告をまたお願いします。ありがとうございます。
- **教育委員（長井知子君）** おはようございます。よろしくお願いします。

私は、2月7日に学校給食センター運営委員会に参加させていただきました。その中で思ったのは、とても資料を詳しく作ってくださっているんですけども、特に栄養教諭の方が作ってくださっていると思うんですけども、写真が上手に配置されていて、質問をするととても熱心にお話ししてくださるので、栄養教諭の思いが伝わってくる会議でした。

そして、その中で特に印象的だったのは、可児市は外国籍が多いということで、毎年行っているということなんですが、2月はフィリピンの家庭料理を給食に出したりだとか、またほかには兼山小学校で生産者の方を招いて給食を食べる交流会をしましたということでした。

また、すごいなと思ったのが、他市町村の栄養教諭の方々と情報交流をしているそうで、他市町村で人気だったメニューを取り入れて子供たちに出しましたということで、例えばその中でニンジンしりしりというのを出しましたということでした。ニンジン嫌いな子供って多いと思うのと、親はどうやって子供にニンジンを食べさせようかと悩んでいる方も多いと思うので、給食で出していただいて、ありがたいなと思っている親さんも多いんじゃないかなと思いました。

また、今物価高で、限られた予算の中で給食センターが一生懸命子供たちのために栄養素をどれだけ取り入れられるかと考えて作ってくださっているんですけども、子供たちには、給食を食べているその向こうには、いつも言うんですけども、作ってくだ

さる方がいて、さらにその先には農家さんがいて、そして肉や魚に関しては命をいただいているんだよということが子供たちに分かってもらえたらなということを経食センターのお話を聞くたびにいつも思います。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

給食センター所長が涙を流して喜びそうなお話だったと思うんですけど、本当に長井委員の言われるように、可児市の給食センターの職員、栄養教諭の方々というのは、子供たちのおなかを満たす給食ということだけではなくて、食に対する考え方を育みたいというすばらしい食育をやっておられると思います。給食費の無償化が取り沙汰されて話題になってきているんだけど、一方で、その中で心配なのは、給食の、ただになったら、給食はあって当たり前みたいなことになったときに、長井委員が言われるような感謝だとか、給食の向こうに何があるのかということも含めて、食育に関する興味・関心が薄れていくことを危惧します。

そういう意味で、子供たちだけじゃなくて、保護者に可児市がどんな食育をやっていっているのかということを広めていくことも大切ではないかなということを経所長や栄養教諭の方々と話をしているところです。ありがとうございます。

議事

○ **教育長（堀部好彦君）** それでは、議事に入ります。

○ **事務局長（飯田晋司君）** 議案書を御覧ください。

表紙の裏のページの目次のとおり、本日は議案が3件です。

議案第2号 教育に関する予算の意見について（令和7年度可児市一般会計予算）、議案第3号 教育に関する予算の意見について（令和6年度可児市一般会計補正予算（第8号））、議案第4号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について、以上3件についてよろしくをお願いします。

○ **教育長（堀部好彦君）** 本日の議事の議案第2号 教育に関する予算の意見について（令和7年度可児市一般会計予算）、議案第3号 教育に関する予算の意見について（令和6年度可児市一般会計補正予算（第8号））、議案第4号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について及びその他の不登校児童生徒の状況について、児童生徒校内事故、問題行動、交通事故等の記録についてについては、意思形成に関わる案件、個人情報、プライバシーに関する情報のため、教育委員会会議規則第14条の規定により非公開とすることにしたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

異議がないようですので、これらの件については非公開とします。

報告事項

○ **教育長（堀部好彦君）** それでは、報告事項、いじめ相談受付状況についてを議題とします。

○ **子育て支援課専門対策監（牛江明美君）** 令和6年度いじめ等に関する相談の状況について説明させていただきます。

初めに、皆さん御存じかと思いますが、いじめ防止専門委員会は、通報や相談があっ

たいじめの解決を図るために必要な調査、審査、関係者との調整、また関係者への助言、支援などを行っている市長部局の機関です。

それでは、説明させていただきます。

初めに、別紙3の最終ページにありますいじめの相談受付状況の表に沿って、令和6年度4月から1月の受付状況についてお話しさせていただきます。

上の表、種類別・年齢別の資料を御覧ください。

左側の相談種類別は、大きくいじめ、その他とし、内容により区分してあります。右から3列目の計の欄には、本年度1月までの受付件数を記載してあります。種類別としては、いじめが8件、その他が20件の合計28件の受付をしました。いじめの受付は、物理的ないじめとして、暴力、嫌なことをされるなどが2件ずつ、心理的いじめとして、悪口・からかい等が3件となっております。

その下のその他の欄では、いじめ以外の相談で、20件のうち19件がいじめの前段階ということで、いじめとしては認知されていないが、いじめになり得る可能性が高い事案として上げております。

年齢別の内訳では、その他事案を含めると中学1年生が7件と多くなっております。

下の表を御覧ください。

左側の問題別は、上の表、相談種類別と同じ、いじめとその他に区分しています。表の右3列は、計、終結、継続中のケースの各欄2段書きで、上段は本年度の件数、下段括弧書きは前年度からの継続件数が記載されており、上段と下段の数を合計した件数に今対応しております。

一番右の欄にあるように、1月末現在対応しているケースは、今年度のいじめのケースが8件、その他の前段階のケースが19件、その他が1件です。前年度から継続のいじめのケースが21件、その他、いじめの前段階のケースが4件で、合計53件のケースに対応しております。

経路別の内訳の子供本人からの相談は4件でした。今年度は、学校との共有ケースが19件と多くなっております。

それでは、別紙3の表のほうに戻っていただいて、主な事案内容としては資料のとおりですが、案件を例として挙げますと、仲のよい子とふざけ合う中での行為が自分は実は嫌だった。学校や加害者に知られたくないということで専門委員会へ相談されたという事例がありました。学校にその旨を話すことで、学校は加害者側に知られないよう見守りをしていただき、また加害者の行動に対しての注意を促して対応をしていただきました。

キッズクラブでの案件もあり、学校外で起きたことでも、保護者の同意をいただき、学校でも見守りをお願いした案件もありました。

また、スポ少での案件は、加害者と被害者の学校が違うということで、学校側も対応が難しい案件でした。関係機関と連携を取り、相談された子供や保護者が安心して学校生活を送るために、みんなで見守りをしていくことを理解していただくよう努めています。

裏の面に移ります。

学校と当委員会との共有ケースについて。

今までも学校との共有ケースという言葉が出てきておりますが、これは令和2年度から取り組んでおり、学校からの相談や定期学校訪問での情報共有の事案等を対象に学校と協議をして決めています。共有ケースの内容としては資料のとおりですが、継続ケースも含めて発達の特徴が背景にあると思われる事案が増加していることを感じており、またそういった子は加害者になり得る子が多く、丁寧な関わりや見守りを継続していく必要があると感じています。

先ほどもお話ししましたように、今年度は共有ケースの件数が多くなっており、学校の先生方が困り感のある児童・生徒の様子をキャッチし、学校全体で今まで以上に丁寧な対応を早めにしてくださっていることで、専門委員会への相談件数も減少傾向にあるのではないかなあ、未然防止としてのいじめの前段階のケースが増えているのではないかと考えております。

3番の学校訪問について。

事務局による定期学校訪問及び委員の訪問については、資料のとおり訪問させていただいております。各学校の定期学校訪問に委員、専門委員が同行していただき、授業の様子の参観や意見交換、助言などをさせていただきました。

4番です。子供からの相談促進について。

資料のとおり、配付依頼をさせていただき、学校からも子供たちにいじめについての指導や声かけがされていることに大変ありがたく感じております。先日もチラシを配付させていただきました。そのタイミングで、2月になり、手紙が何件か届いているという状況です。

5番に移ります。令和6年度いじめ防止の広報・啓発活動について。

キッズクラブなど関係機関に、いじめ防止専門委員会がどのような機関で、どのようなことをしているか知っていただくことが大切だと考え、ポスターの掲示を依頼しています。また、専門委員による講話を学校、PTA、家庭教育学級に案内しています。令和6年度、今年度は帷子小学校で教職員向けに、弁護士の視点から「子どもの命を守るために」と題し、スクールローヤーや保護者対応などの話をさせていただきました。この資料の次のページに来年度の講話の紹介をしております。また学校のほうにも配付しまして、ぜひ御活用していただければと思っております。

今後も教育委員会や学校の協力を得ながら対応してまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

長くなりましたが、以上、令和6年度いじめ等に関する相談状況の報告を終わります。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

ただいまの子育て支援課からの説明につきまして、御質問、御意見等はございますでしょうか。

○ **教育委員（長井知子君）** お話の中で、子供が専門機関に相談して、そこから学校とかに話して、加害者に分からないように話を進めたとありましたけれども、本当にいじめられる側としては、親に言って、その親がうまく言ってくれないと、何かもっとややこしくなるとか、きっとそうやって子供も考えると思うので、そうやって上手に裏でやってくださったことは、子供は救われたんじゃないかと思いました。

あと、裏面になりますけれども、いじめの前段階が昨年7件で、今年は19件ということですが、増えてきているということは、それだけやってくさっている、見てくださっているということだと思います。救われる子供たちがたくさんいると思いますので、どうぞよろしく願いいたします。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

ほか、よろしいでしょうか。

〔挙手する者なし〕

じゃあ、私から二、三、お礼ばかりですけれども、本当に日頃から教育委員会や学校との連携を大切にしてくださっていることを本当に改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございます。そういった地道な御努力が、この資料にコンパクトにまとめられていると思っています。

先ほどのお話の中で、学校でつらい思いをしている子が先生には言えないと、恥ずかしいから言えないと。だけれども、それ以外のところだったらということはいじめ防止専門委員会にSOSを発信して、その後の対応が、その子の気持ちを酌んで見守るということを第一に置きながら守っているという取組、本当に素晴らしいと思いますし、ありがたいと。可児市だからこそできる対応ではないかと思いました。

また、研修につきましても、教職員だけではなくて、子供たち、さらには保護者向けにも用意されていると。メニューが。これについても本当にありがたいと思います。特に私、興味があるのは保護者向けの研修ですけれども、この研修についてどこかで実際にやられたということはあるんでしょうか。

○ **子育て支援課専門対策監（牛江明美君）** 保護者向けに関しては、まだありません。

でも、去年ですかね。令和5年度に学び講座のほうで、いじめ専門委員の専門委員が講師になって家庭教育学級で。

○ **子育て支援課子育て応援係長（石丸 聡君）** 子育て中の保護者の方とか、家庭教育学級の方とか、PTAの方を対象に子育て学び講座というのをやっているんですけども、そこで心理士の委員の方にいじめについての話をさせていただきました。

○ **教育長（堀部好彦君）** なるほど。それはありがたいですね。

突然で申し訳ないですけれども、そういった保護者向けの研修のときの保護者の感想なんていうのは、何か様子とかはどうなの。どんな気持ちになられるんですか。

○ **子育て支援課子育て応援係長（石丸 聡君）** やっぱりふだん学校で自分の子供の姿をずっと見ているわけではないので、そういったところは学校のそういう人間関係とか、そういうもの、気になっているもの、そういういじめの話、人権の話とか、そういうものを聞いてよかったという感想があったと思いますけれども。

○ **教育長（堀部好彦君）** なるほど。ありがとうございます。

ほか、伊藤委員、梶田委員、よろしいですか。

○ **教育委員（梶田知靖君）** はい。

○ **教育長（堀部好彦君）** では、今後とも連携を大切にしながらということで、共に頑張っていきたいと思います。よろしく願いいたします。ありがとうございました。

○ **子育て支援課専門対策監（牛江明美君）** ありがとうございます。失礼いたします。

各課所管事項

- **教育長（堀部好彦君）** それでは、各課所管事項です。
- **事務局長（飯田晋司君）** 私からは議会の予定についてお話をさせていただきます。
次回の令和7年第1回定例会が2月25日開会、3月24日閉会の28日間の会期で開催される予定となっております。本日、この後また審議していただく議案第2号及び第3号は予算案として上程をすることとなっております。議会中の一般質問につきましては、3月5日、6日を予定しております。教育委員会への質問や答弁については3月の会議で御報告させていただき予定でございます。
私からは以上です。
- **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。
- **教育総務課長（水野 修君）** 私のほうからお願いします。
お手持ちの資料、令和6年12月実施「今後の兼山小学校」アンケート調査報告書、こちらの資料を御覧いただきたいと思います。
今後の兼山小学校につきましては、アンケートを保護者、それから兼山の地域の人を対象に昨年12月にアンケートを実施しております。総数で60世帯（在校生46世帯、就学見込み14世帯）、こちらはL o g oフォームで実施をさせていただいております。
その全体の回収率になりますが、60世帯に対して32世帯から回答いただいております。おおむね回収率53%ということになって、この表のとおりでございます。
下4番、アンケート内容と結果でございますが、設問はごくシンプルでございます。こちらに書いてありますとおり、兼山小学校の児童数が減少して複式学級となるということが今後予測されてくると。さらに児童数が減少した場合、どういうことが一番いいのかというのを選択肢から選んでくださいというのが今回の設問になります。
選択肢といたしましては、小規模特認、複式学級になることはやむを得ないが、小規模特認制度を推進して、できる限り複式学級を避けるほうがよい。それから2番につきましては、複式学級になることはよくないため、適切な時期に学校統合を検討したほうがよい。こういった設問をさせていただいておまして、結果、小規模特認校制度を推進という方が80%を超える回答ということでございます。
裏面へ行きまして、こちらのほうは各いろんなパターンに分かれまして、こういった方がそういう意見を持たれているか、そういったところを書いたものでございます。
年代別、それから兼山在住者と小規模特認校制度利用者の内訳のデータを記しておきました。
その真ん中辺には、1番と2番、選択した理由というのを上げさせていただいております。
あと、一番下のほうにはその他自由意見ということで、いろいろな考えをお持ちになられている保護者の方がおられますので、その声を載せさせていただいております。
今回、このデータにつきましては、アンケートの結果をまとめさせていただいたものとなりますので、あくまで結果という形で御承知おきをいただきたいと思います。
この後、教育委員会のほうで、このアンケートも含めながら、今後の方針ですとか、そういったところを今まとめておる最中でございますので、またそちらにつきましては

御報告をさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

それからもう一点でございますが、来週月曜日、教育委員の視察がございます。17日月曜日8時30分出発予定でございますので、御参加される方はお時間のほうよろしくお願いいたします。

私のほうからは以上です。

- **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。
- **学校教育課長（木村正男君）** よろしくお願ひします。

1月19日以降の学校に関わる動きを大きく3点お願ひいたします。

1つ目、学級閉鎖のことです。1月19日以降には5校8学級で学級閉鎖がありました。今渡南小学校、帷子小学校、広見小学校、桜ヶ丘小学校、今渡北小学校です。インフルエンザ及びコロナ、発熱などによる学級閉鎖です。現在閉鎖している学級はありません。前回お伝えしたように、勢いが広まっておりますが、今現在、一時の勢いは収まって、比較的落ち着いているかなあという状況でございます。

大きく2つ目です。先ほどからも何度も話題が上がっておりますが、本市の外国籍児童・生徒の動向についてお伝えしようと思ひます。

令和7年1月1日現在の人数を前年の1月1日と比較してみた計算の発表です。市の総人口が9万9,761名です。昨年に比べると419名、市の人口は減っている状況です。それに対して外国籍の人口は9,099名、347名昨年に比べて増えている状況です。さらに外国籍の児童・生徒は898名ですので、昨年の1年前に比べて50名増えています。そして、その中で特に日本語指導が必要だという子供が601名おりました、昨年に比べると149名増えていることとなります。ちょっとここは増えているように感じるんですが、実は昨年までの計算では、日本語指導が必要な子供たちの中には、学級から取り出しているという子供たちばかりが計算に入っていて、取り出していない学級にいる子供たちの中に日本語指導が必要だという子供たちの計算が入っておりませんので、担当は今年はそこもしっかり掘り返していきたいということで数字が上がってきておりますので、今後は通常の学級で取り出していない子供たちの中にも、日本語指導が必要だという子供たちがいるということをしっかり認識して対応していきたいなというふうに思っております。

ちなみに国別でいきますと、フィリピン、ブラジル以外には10か国ありますので、御了解ください。今年度、特に国際教室の運営を円滑に回すために代表者会というのを開きまして、フレビアとか、ばら教室とか、各それぞれの代表から来ていただく会議を6回開いております。非常にその会議の内容が濃くて、よかったと聞いておりますので、次年度も継続したいと思っております。

最後3点目、卒業式についてです。3月7日に中学校5校、卒業式を迎えます。教育委員の皆様にも参加していただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

- **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。
- **教育研究所主任指導主事（石黒智子君）** 教育研究所よりの資料がありますので、御覧ください。

1ページの2番の研究・研修についてお伝えしたいと思います。

最後の可児市の初任者研修が、30人全員参加することができ、無事終了しました。道

徳の授業とか、メンタルヘルスについての2講座とも熱心に学ぶ姿がありました。今年度は初任者が例年よりも多いということもあり、資質向上について各学校にこれまで以上に丁寧に対応してもらいました。それは、12月から1月にかけて行った初任者アンケートからもうかがえます。

2ページに回答内容の概要を示しました。

1つ目の質問として「どんな働きがいを感じましたか」と問いました。その中では、生徒の成長とか、学級経営の達成感、そして自己の成長に働きがいを感じていることが分かります。

また、2つ目の質問として「なぜ、そのような成果を収めることができましたか」という回答から、周囲のサポートや相談しやすい環境に助けられながら成長できたと感じられていることが分かりました。

これらのことから、初任者の先生には、困ったときとか失敗したときこそ安心して学び続けられる支え合いのある体制において、スモールステップの達成で自己の成長を感じられるということが分かります。つまり、可児市の学校の同僚性の高さが初任者の成長を促したのではないかと捉えました。

3・4ページにつきましては、幼保小の架け橋プログラムについての今年度のまとめです。県の指定を受けて、令和4年度から3年間、公立の保育園・幼稚園、私立の幼稚園・認定こども園といったカリキュラムや規模が違う様々な園から1つの小学校に入学するという中で、どのようにして学びの連続性を確保し子供たちの成長を支えていくのかということ、代表校1校とその校区の園で協議を重ねました。これまで園と小学校が別々に取り組んできた年長児のカリキュラムと1年生のカリキュラムをつないだ接続期カリキュラムを作成しました。今後、各小学校区においても共通の視点を持って協議会で話し合っていく予定です。

私からは以上です。

- **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。
- **学校給食センター所長（水野伸治君）** おはようございます。お願いします。

3点お願いいたします。

1つ目ですが、先月1月30日の学校給食で予定しておりましたデザートは蜂蜜レモンゼリー、こちらが納入業者による誤発注が原因で提供することができませんでした。前日の29日に業者から連絡が入りまして、センターから注文したものと違ったものを手配してしまっておりまして、翌日までに注文の品全てを用意することができないということでしたので、やむなく保護者の皆様へすぐにお知らせをいたしまして、お詫びをいたしました次第でございます。委員の皆様にも御心配と御迷惑をおかけしてしまいまして、大変申し訳ございませんでした。

2つ目です。先月1月24日から30日までの5日間、こちらを学校給食週間といたしまして、岐阜の郷土料理や岐阜県産・可児市産の食材を使用した特別献立というものを提供いたしました。

そのうち29日が、がんばれかにつこ！献立の日でしたが、この日は、先ほど長井委員からも御紹介いただきました兼山小学校においてふれあい給食というのを実施いたしました。給食で使用しております麺とか、お米、みそなどの食材の市内にお見えになる生

産者、またパンや麺などの主食業者の方々を招待いたしまして、子供たちと一緒に給食を食べていただくイベントを実施いたしました。食材を育てたり作ったりする上での喜びですとか、苦労話などを子供たちが聞くことで、地場産物への理解を深めていただいて、また給食に携わっていただく方々への感謝の気持ちを持つことができたのではないかと考えております。

個人的に感じましたことですと、主食業者の方と私たちの接点といいますと、異物混入があったときに事務所におわびにお見えになったというときぐらいでしたが、今回業者の方々の、これでもかというぐらいすてきな笑顔を拝見することができましたので、招待者の方々にとっても、とてもいい機会になったのではないかなと個人的に考えております。

3点目でございます。先ほど長井委員からの御出向をいただきました学校給食センター運営委員会を2月7日開催いたしまして、給食に使用する物資を納入する業者の次年度の登録に関しましてお諮りをいたしました。継続の業者29者に加えまして、昨年度に蜂蜜を御寄附いただいた方からの新規の申請を合わせて、合計30事業者の登録につきまして御承認いただきました。

また、食材費の現状ですとか、市として今後の物価高騰対策を継続すること、それから来年度からの給食調理業務委託に関する、行ってまいりましたプロポーザルの結果等について御報告をさせていただきます。

私のほうからは以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

各課からの話につきまして、御質問、御意見ありますでしょうか。

○ **教育委員（梶田知靖君）** 質問ではないですが、給食センター所長、いつもありがとうございます。

それこそ学校へお仕事で8時ぐらいにお邪魔することがあるんですけど、給食センターのトラックがもうそんな時間に配達をされていて、配膳の方にも少しお話を聞いたんですけど、食器をまず最初に持ってきてくださるということを初めて知りまして、こんな早い時間から持ってきてくださっているということは、もっとそれよりも前に給食センターへ出勤をして、朝早くからお仕事をしていただいているんだなというところで、その話を聞いてとても感謝しました。ありがとうございます。

先週なんかは雪の日が多かったですけれども、その辺りは大丈夫でしたか。

○ **学校給食センター所長（水野伸治君）** トラックのほうはスタッドレスを履いておりますので、学校のほうの除雪もしていただいていることを確認しまして、私どもの給食センターの周りには職員と一緒に雪かきをして、何とか運行できるようにはさせていただいております。調理員の方々も早めに出てきて、いつもよりは早めに出たという方も数名お見えだったので、感謝を伝えていきたいと思っております。

○ **教育委員（梶田知靖君）** ありがとうございます。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

○ **教育委員（長井知子君）** 兼山小学校のアンケートの件で、資料の裏にあります保護者からの意見で「複式学級になっていく現状を知り子供にとってよくない環境だと感じた」というのは、やはり子供にできるだけたくさんの子と関わってほしいという

のがやはり一番多いのですか。

- **教育総務課長（水野 修君）** すみません、どこの部分ですか。
- **教育委員（長井知子君）** 一番裏のページの自由意見で、保護者さんから複式学級はあまりよくないなあと思ったとあるのは、やはり親として、子供にたくさんの人と関わってほしいという思いがやっぱり一番多かったですか。
- **教育総務課長（水野 修君）** この自由意見につきましては、この書き方でしか私どもは分からないので、真意がどこにあるのかというのはちょっと分かりづらいところがございます。ですので、実際こういうことなんだろうなということぐらいしか言えないんですけども、理由としてはちょっと私どもでは分からないので、すみません、それ以上のことが言えないということです。
- **教育委員（長井知子君）** 分かりました。すみません。
- **教育長（堀部好彦君）** その点、大変大切な重要な視点だと思うんですけど、というのは、アンケートでは当然分かることは限られてくるように思うんですけど、保護者の本音というか、何を考えておられるのかということのを常に理解をしていく姿勢は大切じゃないかなと思います。

私も例えば別の視点、別のところなんですけれども、①と回答した保護者の意見、裏面ですね。この意見の2つ目「複式学級でも構わない」という意見、お一人、1件書いてあるんですけども、これは複式学級のデメリットは分かった上で、それでも構わないとおっしゃっているということだと思うんですけども、なぜそれでも構わないと思っているのかなということを私としては理解をしていきたいと思います。兼山から学校がなくなることを危惧しておられるのか、兼山の教育活動、ふるさと教育のよさのほうを買っているということなのか、きめ細かな指導を優先しておられるのか分かりませんが、その辺りを深く理解をしていくという視点を持つということも大切かなということ、今、長井委員の話聞いて思いました。

ほかにはよろしいでしょうか。

〔挙手する者なし〕

委員からの提案協議事項

- **教育長（堀部好彦君）** では、次に教育委員からの提案協議事項についてを議題とします。

何かありますでしょうか。

よろしいですか。

〔挙手する者なし〕

その他

- **教育長（堀部好彦君）** それでは、次にその他に行きます。
次回の日程です。
- **教育総務課長（水野 修君）** 次回会議の日程についてですが、臨時会を3月4日火曜日の午後2時からということですのでよろしくお願いをします。場所は教育長室です。
次の定例会は、3月27日木曜日の午前9時から市役所5階第2委員会室で行いますの

で、よろしく申し上げます。以上です。

- 教育長（堀部好彦君） それでは、これより会議を非公開とします。

（以下非公開）

（以上非公開）

閉会の宣告

- 教育長（堀部好彦君） それでは、以上で全て終わりましたので、これにて教育委員会会議を閉会します。ありがとうございました。

閉会 午前10時45分